【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	滋賀県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	彦根市立城南小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	3	2	4	２０	２９
児童数	８１	８１	104	７６	９８	７０	１１	５２１	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学びの力を身につけ、生き生きと学ぼうとする子どもの育成
～基礎・基本の力をつける複数指導・少人数指導のあり方を求めて～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・１～６年生　・国語　算数
教科の学習内容の系統性が大きく、現在の児童の理解の状況に顕著な差が認められ、かつ、今後も理解の状況に差が生じやすい教科であるため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度

○　**テーマ**
学びの力を身につけ、生き生きと学ぼうとする子どもの育成
～基礎・基本の力をつける複数指導・少人数指導のあり方を求めて～

○　**研究の見通し（研究仮説）**
複数指導や課題別・習熟度別グループ等による少人数指導できめ細かな学習指導を工夫すれば、児童は基礎・基本の力を身につけ、意欲的に学習に取り組もうとするのではないか。

○　**研究の内容・方法**

１　研究仮説についての基本的な考え方

①複数指導や課題別・習熟度別グループ等による少人数指導

学級集団を母体とする学習は、児童一人ひとりの個性を基盤とした多様な考え方に学び合うというよさがある。一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあり、互いの感じ方や考え方のよいところを学び合えるおもしろさがある。その反面、児童一人ひとりの興味や関心、学習意欲、学力に大きな差異があり、一斉指導で学習を進めていくことが困難な状況も生まれている。

課題別グループ、あるいは習熟度別グループによる少人数指導では、興味・関心が共通した仲間と共に学習内容を深めあったり、同じ学力レベルの仲間とともに学習内容を十分理解できるまで繰り返し学んだり、発展的な学習に取組み学習への充実感を味わうことができる。

学級集団を母体とした一斉学習のよさと少人数指導のよさを考慮しながら、算数科と国語科を研究の窓口にして研究を進めていく。第１学年では、児童の精神的な安定を重視し学級を母体とした複数指導を、第２学年では児童の育ちを見ながら一部少人数指導を、第３学年以上では課題別・習熟度別グループによる少人数指導を、年間の重点単元を設定して授業実践を行う。算数科では「数と計算」の領域を中心に、国語科では「話すこと・聞くこと」「読むこと（説明的な文章）」「総合的な言語活動」の学習単元を中心に、本校児童の課題となる基礎的な力を向上させる内容を選択し、重点単元を設定し実践を進めていく。

②きめ細かな学習指導

複数指導あるいは少人数指導できめ細かな学習指導を図るために、以下のことに留意して学習指導を進めていく。

・単元目標の明確化…２名以上の複数の指導者が単元の学習を担当するので、単元目標を共通理解しておく必要がある。何ができるようになればよいかを具体的な姿で描き出し、言葉に表すことが大事になる。

・評価基準の明確化…目標の明確化から評価規準までは描き出しができるが、指導の結果一人ひとりの子どもが目標にどの程度到達したのかを判断する基準を明確にしておく必要がある。指導者が複数であればあるほど指導前に明確なラインを示しておく必要がある。

・課題別、習熟度別の学習過程…グループ別の少人数指導を行う場合、各グループに適切な学習過程が求められる。習熟度別グループでの指導の場合、もっとも時間を要すると考えられるグループが学習目標を達成できるかどうかが重要なポイントになる。

・学習習慣の形成　…母体となる学級集団を解体して、課題別あるいは習熟度別グループによる少人数指導を進めていくとき、学習習慣が異なっているとスムーズに学習が進まない。学校全体で、学年全体で共通して育てておくべき学習習慣を確立しておく必要がある。

上記の点に配慮をしながら、きめ細かな学習指導を進めていく考えである。

③基礎・基本の力

本研究での「基礎・基本の力」を次の２点から規定する。

・学習指導要領に示された国語科、算数科の当該学年の指導内容（教科の基礎・基本）

・学習を進めていくための土台となる力（学習の基礎・基本）

学習の基礎・基本となる力は、例えば、話し合いの学習に必要な「話し方」「聞き方」、「メモの取り方」、「ノートの取り方」、「考えを書く力」「必要事項を読む力」「既習の計算の力」などである。これらの力を確実に身につけることが重要であると考える。

④　意欲的に学習に取組む

意欲的に学習に取組む姿とは、学習への意識が途切れず持続することであると考える。前時と次時の学習の間に自ら疑問に感じたことを調べる、分かりかけてきたことを確かにするために自主的に補充学習をするなど、一つの単元の学習の中での児童の学びの姿や、前の単元で学習したことを生かそうとする姿などで見取ることができる。

このような学習への意識は、児童の自己評価力をつけていくことで高めていくことができると考える。

２　研究の内容

①　全校で取組む学習の基礎づくり

全校で共通して育てていくべき力（話す力、聞く力、書く力、計算力など）を明らかにして、学年に応じた学習の基礎づくりを共通実践していく。

また、金曜６校時（１年は５校時）や長期休業期間等課外に行う補充学習のあり方や朝の読書タイム、朝自習のあり方についても検討する。

②　学習評価のあり方の検討と研究成果を自己評価するための調査

重点教材を中心に、学習指導要領に基づき評価基準の作成を進め、目標準拠による絶対評価のあり方について検討する。また、児童の自己評価力を向上させる取組みも進める。

児童の学ぶ力の伸びや学習意欲の向上、保護者の研究に対する意識を調査し、研究成果についての自己評価を実施しながら研究を進める。

③　課題別・習熟度別グループ等による少人数指導の充実

学期ごとに国語科と算数科の重点教材を設定し、課題別グループあるいは習熟度別グループによる少人数指導を実施し、授業実践交流を行う。

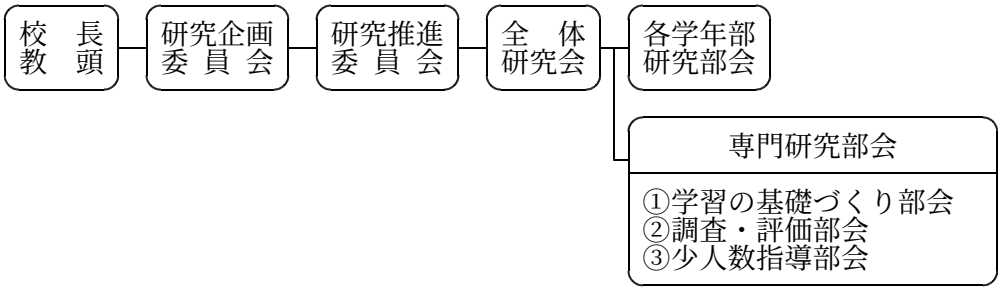
○　**テーマ**

学びの力を身につけ、生き生きと学ぼうとする子どもの育成

～個に応じた複数指導・少人数指導（補充と発展）のあり方を求めて～

平成16年度	○　**研究の見通し（研究仮説）** 　複数指導や課題別・習熟度別グループ等による少人数指導できめ細かな学習指導（補充学習や発展学習を含む）を工夫すれば、児童は基礎・基本の力を身につけ、意欲的に学習に取り組もうとするのではないか。 ○　**研究の内容・方法** １　全校で取組む学習の基礎づくりの継続 ２　学習評価のあり方の検討と研究成果を自己評価するための調査 ３　課題別・習熟度別グループ等による少人数指導の充実 ４　評価基準に対応した補充学習と発展学習の進め方の実践と考察

(3)　研究推進体制



・専門研究部を設置し、「学びの力」を支える基礎づくりや評価基準の作成、本研究の自己評価、複数指導・少人数指導の効果的な進め方等についての研究を進める。専門研究部にも全教員が所属し、本研究のねらいが達成できるように配慮する。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

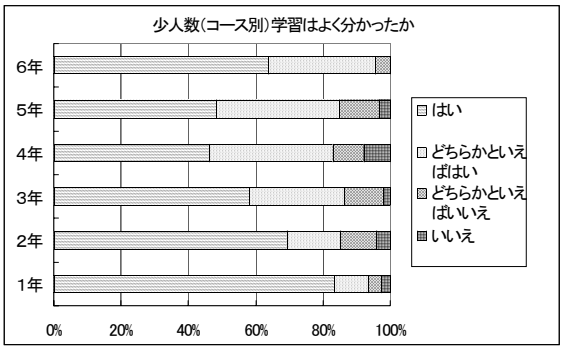
１．研究の成果

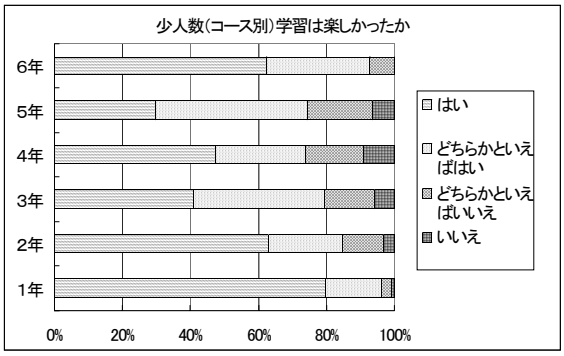
　右上のグラフが示すように、「少人数（コース別）学習はよく分かったか（※１年は複数指導）」のアンケート項目に対して、１年から６年まで「はい」「どちらかといえばはい」と答えた子どもが８０％を超える高い数値を示している。特に、６年生では９５％以上の子どもが少人数学習に対してプラス面での評価をしている。

　また、「少人数（コース別）学習は楽しかったか」のアンケート項目に対しても、１・２・６年では８０％以上の子どもが、３・４．５年でも８０％近くの子どもが少人数（コース別）学習を楽しかったと評価している。

　このことは、子どもたちが学習に意欲的に取組む姿の表れであると判断した。

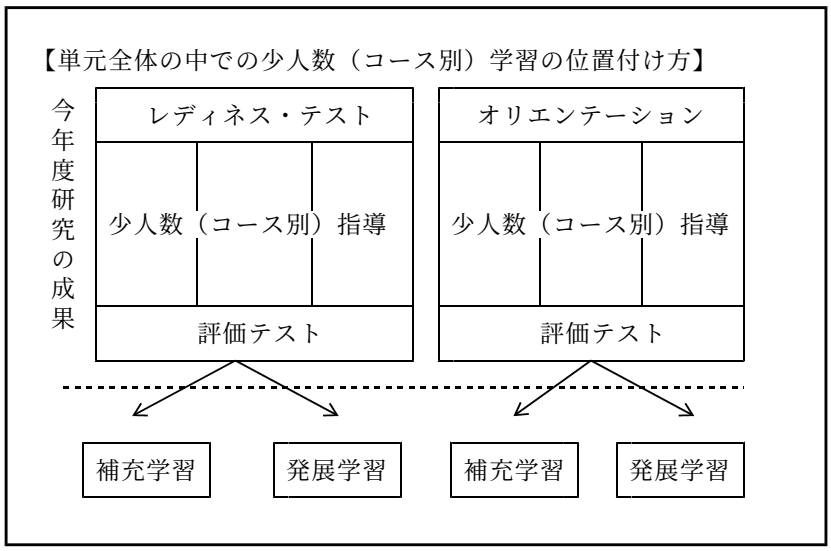
　今年度から本格的に取り入れた少人数（コース別）学習であるので、指導者も教材研究や子ども研究に積極的であったことが子どもたちからの高評価につながったと考える。





２．今後の課題

今年度は、少人数指導を行ってきたのか、評価テストの目的を確認し、一人ひとりの子どもの学習を評価し、効果的な指導をめざしていくことが必要であると考えている。



研究数人数（コース別）指導のテスト、評価テストを個人に応じた指導をしていくことが必要である。

そのための評価規準の整備を含めて、補充学習と発展学習の充実を次年度研究では試みていきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

＊年度初めに、算数科の「数と計算」の領域を中心とした学力実態調査を実施。
＊５月と１２月に算数科の学習に対する意識調査を実施。
　各項目において、５月と１２月の意識の変化について検討し、今後の研究に役立てる。
＊１２月に保護者を対象に「複数指導・少人数指導に対する意識調査」を実施。
　本研究に対する保護者の評価を問い、今後の研究の進め方に生かす。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成１６年２月５日（木）学力向上フロンティア事業研究発表会

公開授業　３年　国語科「大事なことを落とさずに」
　　５年　算数科「割合」
研究発表
講　　演　「基礎・基本の定着へのアプローチと少人数指導のあり方」
　文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官
　国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
　　吉　川　成　夫　先生

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　■１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　■ 国語　□ 社会　■算数　□ 理科　□ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭　□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■ 有　□ 無